

千代田界隈のレトロな風景



さくら一輪

もう少しで大満開。一輪づつ見てみるのも風情がありますよ。

みどりの風



人・ひと日記

2015.4.1
-NO.199-

小林 功

東日本大震災から4年が経ちました。この大惨事を見て私たちに出来ることは①いつも被災地のことを想うこと。②節電に努めること。③長続きする資金ランパをしていくこと。④介護の仕事をしっかりとやっていくこと、と考えました。「風化」という言葉がありますが年月が経過して人々の記憶や意識が薄まっていくことは自然のことだと思います。しかし政治の世界での風化は許されないことだと思えます。十二万人の避難者がとり残されている復興の現状。高速道路等のインフラ整備を国はアッピールしていますが、津波の危険区域や放射能の汚染区域には戻れず、4年たってもどこで生きるのか見通しすらない人たちがいる。「オリンピック復興」ではなく、「人間の暮らしの復興」の視点を風化させてはならないと思います。原発の危険性に対する意識も風化しつつあるのでしょうか？4年たっても原子炉の現場の中を見ることもできない。タンクに詰められた汚染水は50万トン（50メートルプール330基分）に達しているというのに国がしようとしていることは、原発を推進してきた人には責任をとらせず、再稼働、新設、輸出に向かっている。まるで福島のことが無かったかのように。

「ガラケーからスマホに乗り換えよう・・・」というCMがテレビで流れている。なんのこっちゃ？と思っていたらガラケーとは携帯電話のことでケータイはもう古くてガラパゴス化（化石化？）しておりスマートフォン時代だから買い換えよう・・・ということらしい。スマホは触ったことありませんが、人がやっているのを見ると確かに便利なようです。しかし機能を知らない私は不便を感じたこともないので無用な一品です。しかしこれが無いと生活が出来なくなるようなことになると思います。子どもたちの世界がこうなっているのでしょうか？コミュニケーション手段として必要不可欠？。一方でLINEいじめや犯罪のツールになっていることが報道されています。端末機の購入や通信費のお金はどうしているのか？。日本経済の花形であるIT産業や通信産業の発展は「子ども相手」に利益をあげてきた側面があることを考えてみる必要があるでしょう。

発行 社会福祉法人 悠朋会

千代田 相模原市中央区千代田2・4・1

千代田 デイサービスセンター 042・751・0672

ヘルパー ショーン千代田 042・704・0261

千代田 介護支援センター 042・704・0281

千代田 相談支援センター 042・707・1434



今年もまた春恒例の桜もち作りを行いました。何度も体験しベテランの域に達している利用者さんから、今回初めて体験する利用者さんまで、みんなでおやつ作りを楽しみました。なかには完成が待ちきれず先に中身を食べてしまう方も。それぞれ自分で作ったものは格別な味となったのではないのでしょうか。おやつ作りは新しいメニューも企画中！！次回をお楽しみに。



今月の余暇活動では、フォトフレーム作りを行いました。4月からの余暇活動では、新しいクラフトメニューを取り入れてまいりますので、ぜひ参加してみてください。



こんにちは 私が千代田の職員です

昨年5月よりお世話になっています。最初は目が回るような忙しさと、皆さんのお名前を覚えるのが大変で続けられるか不安でした。

9ヶ月が過ぎた今の目標は、皆さんと

田中 あゆみ おしゃべりを楽しむことです。

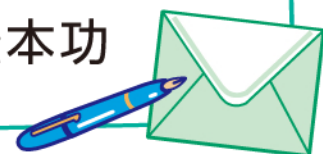
出身:長崎県佐世保市 色々とお話を聞かせて下さいね。

市民交流スペース

4月の予定

彫刻作品展

松本功



こんにちは、千代田のヘルパーです！

こんにちは ヘルパーステーションの 古屋 です。

三つの歌に出場したことのKさんを紹介したいと思います。

小学4年生の頃、三つの歌に出場したKさんです。

きっかけは先生に勧められて出場しましたが、生放送で歌ったら、後から兄に"恥ずかしい！"と言われてしまったそうです。

当時、お客さんはむしろを敷いて聞いていたそうで、昭和30年代のころの懐かしいお話しです。横森良造さんのアコーディオン生演奏。Kさんは2曲歌えたそうです。素晴らしいですね。その当時のころを懐かしそうに、楽しそうにお話しされます。聞いているヘルパーも当時の雰囲気に関心されます。

現在は出来ないところの支援でヘルパーが訪問しています。

ヘルパーさんは何をしなければならないのか分かってきていて『辛いところに手が届くヘルパーで、人に寄り添う介護ができています』と、嬉しい言葉をいただきました。

現在、市役所まで歩ける様になったので、年内までには警察署まで距離を伸ばし、来年は免許を更新するのが目標！ と明るく話して下さるKさんです。

ヘルパーと一緒に写真を撮らせていただいた時には、少しハニカミながらポーズをとっていただきました。



※三つの歌

・1951（昭和26）年11月2日～1970（昭和45）年3月20日まで、述べ20年間、NHKラジオで放送された聴取者参加型の音楽番組。

・司会者は宮田輝で、正しい歌詞で歌えたら1曲で300円、2曲で500円、3曲歌えれば2000円、賞金としてもらえました。

4月1日付けで管理者体制が次のように変わります。

施設長：小林 立 ————— 千代田デイサービスセンター
管理者：田島教次（新任）

訪問系事業部長：小林 充（新任） ————— ヘルパーステーション千代田
介護保険管理者：古屋いずみ（新任）
総合支援法管理者：渡辺真由美（新任）
— 千代田介護支援センター 管理者：志村章子
— 千代田相談支援センター 管理者：菊地歳光

その頃調理師の免許も取った。本を買って自分で勉強した。当時は一二〇〇人が受けて三〇〇人が受かった。自分の名前があった時は感動したね。伊勢甚百貨店の食堂にセカンドとして勤めた。何だか関東圏色々行ったなあ。



伊勢甚百貨店



昭和自動車学校

昭和四十年頃だったかな、ゴミに関する法律（清掃法）が改訂された。リサイクル時代の幕開けだ。知人の紹介で、チリ紙交換の見習いを一週間したんだ。当時は新聞が一kg五円、トイレットペーパーが一つ五円だったかな。先輩について軽トラで回ると、団地の外に新聞が置いてあった。それを回収してペーパーを置いてくる。何だか儲かる気がしたよ。昼休みを利用して昭和自動車学校に通い、週間で車の免許を取った。すぐに軽トラを十五万で買って、給料から毎月五千円を払っていくことにした。その時点で板前は辞めたよ。当時はガソリンも一リットル三十四円。軽トラにベニアを差して、文字通り山積みになり込んで一日何往復もした。早朝から夜中まで休みなく働いて、給料から軽トラ代を払っても三ヶ月で三十万円は残った。笑いが止まらないぐらい稼いだよ。

昭和四十七年に相模原に来て、有限会社工藤商店を設立した。働いた。一言で言うところ、いたよ。パッカー車や平ボディを数台買って、相模原市内も市外も回った。当時から子供会とかとも連携をしていた。今思ってもよく働いたと思う。

リサイクル組合設立の時は、当時の市長や関係課長さん達と何度も協議した。走り始めの段階だったから、議員さんとも一緒に仕事をした。忙しくも楽しい時期だったなあ。

今は一人暮らし。電動車イスで買い物や遊びにも出掛けている。家でシャワーも浴びられるしトイレにも行ける。足はほとんど動かないけど、電動車イスへ乗り移るのも腕の力でしている。自分で良いように生活したいから、ヘルパーさんや訪問看護師さんの手を借りずに今後も生活したいと考えている。調理は、今も自分でしているよ。やっぱり自分の味付けが一番だから、人に任せる気にもならない。若いモンは、もっと貪欲に勉強をして仕事をして欲しいと思っているよ。



4月の予定



ディサービス



お花見ドライブ（予定）

1日（水）～7日（火）

シナプソロジー 4日（土）

体重測定 5日（日）～11日（土）

踊りボランティア 10日（金）

折り紙 16日（木）

誕生会 24日（金）～30日（木）

編集後記

長女の小学校の卒業式に出席しました。『何だか立派になったなあ』と思うと同時に、入学式にソラ色のランドセルを背負って写真を撮ったことを思い出しました。来月には制服を着て中学校へ進学です。何だか嬉しいものですね。 H